



吉田清城



<本年度当番審査員>鳥居柳城



松元彩華



花井清水



小川琴風

石が
 吸ひつけ
 る明るい
 截片が
 中動
 気流す
 第二の
 霊が

増田蘭苑

雲物如明
 思く
 天使の梯子
 不羨し
 始ぬ虹が綺麗
 麗か
 孤を描く

楯芳琴

橋の實り方入
 夢に出た味
 中是夜明け
 春の色
 夕大空が
 赤なる
 樹の白
 白く
 夕暮
 つまの野
 泳ぐ
 宿命
 人
 叫ぶ
 声

村松紫雲



＜本年度当番審査員＞石井小湖



塚原清雪

依頼

準大賞

山岫に雨霧が青れしゆき濛濛
微妙な階調を帯びて樹の姿

瀬東の文
大 河

溝口大河

白夜に沈む地球をささえるのは敵のない
素葉凍りた沈黙に意味は溢れぬ白
はより積又時空をとおろしつづける

香田翠

豊田翠香

寒風の夜の驛頭に柔きうる
郷愁のよきアセシト燈と暮し

三四二五
安田春麗

安田春麗

白雲が夜の中からはばばる重き裳裾で雨は
兼て穀打つ稲妻の閃光にバタバタと電光石火
朝のように香風カラカラと炸裂するへッ子詩古雅

今村古雅

桜花賞



御崎勲城



後藤清華

古賀野五耀の詩
 五耀
 那像と熱で琥珀を幾に輝き、
 古賀野五耀の詩
 五耀
 古賀野五耀の詩
 五耀

古賀野五耀

遠い海を越えて来た鳥の群は早くも空を
 通り渡り紺青の匂ひ香かに雲は高く空を
 うなりを傳へる大空見渡す限り遠退すゆく
 田口愁雲の詩
 愁雲

田口愁雲

の濱り十時頃まで音一つたり
 星智子の詩
 星智子

星智子

一科



<準特選>高木夏蓮



<準特選>今枝瀧華



<秀逸>鳥居柳清

二科



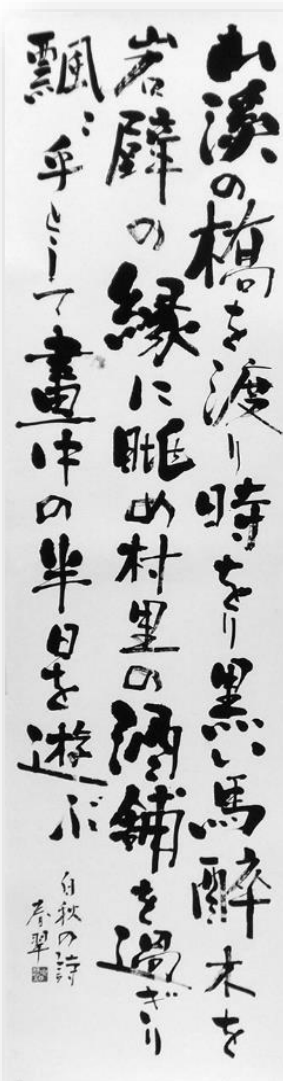
<二科賞>山田清漣



<奨励賞>若杉尚哉



<奨励賞>宮林祥苑



<奨励賞>杉田春翠



<奨励賞> 花咲徳右衛門



<佳作> 小林瑞苑



<入選> 大森暁葉



<入選> 島崎愛石